令和5年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
95	川崎市立 東生田 小学校	猊倉　正樹

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標	
かかわりあいの中で育ち、学び、高まる子を育てる学校 ≪めざす児童像≫「明るい子」「やさしい子」「たくましい子」「伸びる子」 ≪育成する力・能力≫『わかくさ』 「わたしをつくる力」「かかわる力」「くらしに生かす力」「さぐる力」 ※≪めざす児童像≫≪育成する力・能力『わかくさ』≫を連動。 「明るい子」…「わたしをつくる力」 「やさしい子」…「かかわる力」 「たくましい子」…「くらしに生かす力」 「伸びる子」…「さぐる力」	わかくさっ子を育成する学校～New Style Schoolの取組継続の中で～ 1　わたしをつくる力を育てる学校 ①児童の自主的活動の充実 ②学校全体で取り組む児童指導 2　かかわる力を育てる学校 ③いじめを生まない・認めない学年・学級づくり ④異学年交流の充実 ⑤地域と連携した学習の充実 3　くらしに生かす力を育てる学校 ⑥学習で培った力を生かすための仕掛け ⑦学校や地域での日常的なあいさつの励行 ⑧防災・安全教育への取組 ⑨学校評価を学校経営改善に生かす 4　さぐる力を育てる学校 ⑩児童の学びを大切にした指導法の研究 ⑪効果的な教育課程の創造に向けた取組 ⑫特別支援教育・個別支援教育の取組	①児童の相違を大切にした学校行事の取組、ノーチャイムによる児童の生活力向上 ②問題の未然防止に向けた取組、支援教育Coを中心とした教育相談体制、全職員での情報の共有 ③ルールとリレーションを確立した学年・学級集団の育成、「他者理解」「他者意識」をもった学校生活における指導 ⑤地域の人材、「地域の寺子屋」との連携・発展 ⑥児童会活動や日常的な教育活動での言葉へのこだわりと温かい評価、家庭へのフィードバック ⑦教職員が率先垂範 ⑧大規模災害を想定した危機対応の改善・強化、「自分の命は自分で守る」という意識の涵養、情報モラル ⑨学校だより、学年だより、情報配信メール等による情報発信と内容の充実、学校評価の定着 ⑪教科担任制を意識した交換授業や専科指導の試み、GIGAスクール構想を含めた情報教育への適切な対応（学習面、環境面、ホームページ） ⑫「通級指導教室」の充実と様々なニーズへの対応

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	わたしをつくる力を育てる学校	①児童の相違を大切にした学校行事の取組 ノーチャイムによる児童の生活力向上 ②問題の未然防止に向けた取組 支援教育COを中心とした教育相談体制 全職員での情報の共有	◯コロナ禍が明け、全校児童で楽しめる集会や学習発表会を進めることができた。ノーチャイム実施2年目を迎え、自ら時間を確認し、行動ができる児童が増えてきた。相互に声を掛け合う姿が見られる。 ◯支援教育COを中心に、問題を教師間で状況共有をし、連携のとれた児童支援ができている。 ●相談することが難しいと感じている児童が一部いる。安心して相談できる雰囲気のさらなる構築、それのアピールをしていく必要感をまだ感じる。 ●不登校児童について、家庭との連絡やGIGA端末を活用して授業等を行っているが、課題も多く、引き続き改善が必要である。	・教師たちは、いつでも児童の話を聞く体制をとっているが、まだ「待ち」の状態であると思われる。アンテナを立てるだけでなく、アクティブソナーのように学校側から情報や異変を探しに行く。少しでも違和感を感じた時に声をかけるようにしていきたい。 ・保護者から支援教育COや学校巡回カウンセラーへの相談が増えてきており、少しずつ周知できてきている。しかし、児童の中にまだ担任も含め話しづらいと感じているのも事実である。話しやすい、話してもいいと思える環境づくりが大切と感じている。 ・不登校児童へのよりよい対応をさらに模索し、必要性を高めていきたい。

2	かかわる力を育てる学校	③いじめを生まない・認めない学年・学級づくり ・ルールとリレーションの確立した学年・学級集団の育成 ・学級状態の評価と改善点の明確化 ・だれでも気軽に相談できる相談体制の充実、共生＊共育研究協力校、SOS出し方教育、命の授業の実践 ④異学年交流の充実 ・児童会主体の活動を推進 ⑤地域と連携した学習の充実 ・地域の素材を生かした学習材の開発、地域人材の活用 ・「地域の寺子屋」との連携・発展	◯全学年で交換授業等を行っているので、児童理解が進んでおり、いじめ等の対応も学年ですぐに情報共有するなど、迅速に対応することができた。今後も「いじめは絶対に許さない」という強い思いを持ち、教育活動を進める。 ◯登校班等をはじめとする異学年交流については、上級生が下級生をよく面倒みていると感じる。 ◯●共生＊共育研究協力校とうことで、教師の研修等をより充実させ、他者理解、他者意識の充実を図ることができたが、まだ不十分だと感じる。今後も引き続き続けていけたらと考えている。 ◯今年度も日向山をはじめ、恵まれた地域教材をふんだんに学習に取り入れ、本校らしい教育課程を育むことができた。また、コロナ渦以前に招いていたゲストティーチャーをお呼びする機会も増えた。今後も充実さえていきたい。 ◯2・3年対象に水曜日の放課後、「地域の寺子屋」を開設し、本校の教育活動の補佐をしていただき感謝している。	・これからも学年の児童を学年の教師全員が担任のつもりで児童の支援をしていきたい。そのためにも交換授業等効果的なことは引き続き行っていく。 ・社会情勢が許す限りゲストティーチャーを招請していきたいと考えている。また、校外学習についても様々な社会的の問題・制限等もあるが積極的に行っていきたいと考えている。教育活動をその状況に合わせて、随時見直し、充実を図っていきたい。 ・引き続き、「他者理解」「他者意識」というもの、つまり、自分以外の他者のことについても意識した言動を大切にした教育活動を引き続き行っていく。
3	くらしに生かす力を育てる学校	⑥学習で培った力を生かすための仕掛け ・児童会活動や日常的な教育活動での言葉へのこだわりと温かい評価 ・家庭へのフィードバック ⑦学校や地域での日常的なあいさつの励行 ・教職員が率先垂範 ⑧防災・安全教育への取組 ・大規模災害を想定した危機対応の改善・強化 ・「自分の命は自分で守る」という意識の涵養 ・保護者を巻き込んだ情報モラルの指導とオンラインゲーム等今日的課題への対応 ・交通事故の防止 ・不審者対応 ・毎月防犯パトロールの実施 ⑨学校評価を学校経営改善に生かす ・学校だより、学年だより、情報配信メール等による情報発信と内容の充実 ・学校評価（保護者アンケート）の定着	◯行事ごとに行われる、家庭と連携した児童への励ましは、自分の成長した部分を認めてほめてくれているということで、とても励みになっている。 ●低学年は比較的挨拶をする児童が多いが、学年が上がるにつれてその割合が減少する。残念なことである。例年同じ課題が出ている。 ◯情報配信メールについては、必要に応じた発信を行い、保護者や地域に知らせることができた。また、ホームページ等を活用し、児童の活動について発信し、教育活動の理解につなげている。	・挨拶については、大人が手本となる必要性を感じている。教師はもちろんのこと、保護者や地域の方へも啓発し、巻き込みながら、引き続き励行していきたい。 ・災害に対し、「自分の命は自分で守る」ということは身についてきているように感じる。がまだまだ十分ではないので引き続き指導を続けていく。 ・GIGAスクール構想が進むにつれ、情報モラル教育の必要性がますます高まる。児童だけでなく保護者の方も情報モラルについてより知る必要がある。今後もこのような場を設定し、情報発信にもつとめていきたい。 ・学年だよりの学習予定をより詳しくするなど一工夫を加え、保護者も学習の見通しがもてるようにしていきたい。

4	さぐる力を育てる学校	⑩児童の学びを大切にした指導法の研究 ・自分の考えを深める学びの研究 ・協働的な学習の取組 ・粘り強く学習できる子の育成 ・想像（創造）力を豊かにするための「読書」活動の充実 ⑪効果的な教育課程の創造に向けた取組 ・教科担任制を意識した交換授業や専科指導の試み ・GIGAスクール構想を含めた情報教育への適切な対応（学習面、環境面、ホームページ） ⑫特別支援教育・個別支援教育の取組 ・限られた資源で個々の教育的ニーズに対応できる支援体制の工夫 ・通級指導教室の充実と様々なニーズへの対応、新たな通級指導教室の在り方の研究 ・国際教室の実践と発展	○●今年度から算数の研究に代わり、今までに培った力を活用しながらより深い学びにつながる研究を進めてきた。教科が変わり1年目ということもあり、手探りの状態であったのも事実である。今後は、より良い学習方法、指導支援方法等を模索していく必要がある。 ○交換授業は、児童指導の面からも教員の働き方改革の面からも大変効果的である。近尾も行っていきたい。 ○取り出し活動、通級指導教室との連携は深まっている。年度末に通級在籍児童の保護者と担任が面談することで、さらに次年度への方針が明らかとなった。 ○国際教室で、日本語が不得意な外国籍児童を中心に、その子に寄り添った学習を展開し、日本語習得に向けて成果を残すことができた。 ○GIGAスクール構想については、昨年度同様、十分に活用することができた。	・算数の研究について充実させるとともに、引き続き、全教科での探究的な学習をめざす（単元を貫く学習問題の設定、毎時間の学習問題の板書の徹底等）。また想像・創造力の育成のため、「読書」の取組も引き続き充実させたい。 ・今後もGIGAスクール構想の原点に戻り、学習の中での効果的な活用について、お互い取組を紹介し合うなど情報共有に努め、高めていきたい。その母体としてGIGA部会をさらに継続させていきたい。 ・通常級にいる支援の必要な児童、国際教室の児童の情報共有の仕方など、支援教育COを中心に、「支援教育」の視点をもってすすめていきたい。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
・各学年ともに落ち着いて授業を受けている姿に感心している。先生たちに感謝である。また、昔は椅子に座って学習するのが当たり前だったが、教室内を動き回って児童同士が絡み合って学習を進めている光景に新時代を感じている。 ・お互いがいいところを見つけあう活動はとても良い。大人も社会全体もやるべきことだと感じる。引き続きお願いしたい。 ・1学級の人数が減ったとはいえ、1人の先生がみる児童の数がまだ多い気がする。もう少し減らすことができれば、さらに支援の質が高まる。 ・児童たちがGIGA端末を上手に使っている姿に時代の流れとすごさを感じる。これからの社会に必須事項なのでしっかりと身に着けてほしいと思う。	・探究的な活動を様々な場面で行っていく。 ・読書活動の充実 ・R6年度は、わかくさ級、1年4学級、2年4学級、3年4学級、4年4学級、5年3学級、6年4学級でスタート予定 ・仮設校舎増築工事中（令和6年6月稼業予定） ・きめ細やかな指導をするための様々な仕掛け　（例）学年内交換授業、少人数授業、取り出し授業、専科授業の実施。通級指導教室との連携。国際教室の充実・様々な今日的教育課題（GIGAスクール構想、キャリア在り方生き方教育、防災教育、情報モラル教育等）のさらなる充実 ・保護者になかなか伝わりにくい探究的な学習や特別支援教育については、アピール不足だと認識し、積極的に広報していく。 ・市政100周年に向けた取り組み、開校60周年に向けた取り組みについてさらに進めていく。